

鳥取市視察報告

視察日：平成23年3月8日（火）・9日（水）

視察地：3月8日（火）鳥取市鹿野町鹿野

3月9日（水）鳥取市中心市街地

視察者：中心市街地活性化協議会

町家利活用プロジェクト会議 白井リーダー、柴山委員

大津市都市再生課 高野副参事、田山主任

対応者：鳥取市鹿野町総合支所 地域振興課 土橋課長（兼副支所長）、久野氏

NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 理事長 長尾氏

((併) 株式会社ふるさと鹿野 代表取締役社長)

NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 副理事長 佐々木氏

視察目的：

鹿野町において地域住民が主体となって進めている町家の保存・活用の取組みについて学び、本市における大津百町の歴史的資産・資源を活かしたまちづくりを進めるにあたっての基礎資料とする。また、鳥取市中心市街地の歴史・文化施設や商店街等を視察し、活性化の取組みについて学ぶ。

位置



(鳥取市中心市街地)

- ・基本計画

平成19年11月30日認定

～平成25年3月（5年5ヶ月）

- ・面積210ha

- ・人口約12,000人

- ・鳥取城の城下町として街並みが形成

- ・歴史・文化施設と自然環境が豊富

- ・商店街が多く連なっている

(鹿野町鹿野)

- ・戦国時代に鹿野城主「亀井茲矩」のもと城下町として繁栄

- ・約400年伝統を誇る「鹿野まつり」（鳥取県無形民俗文化財）が、隔年4月に開催される
→まつりで繋がるまち

- ・鳥取市鹿野町：人口約4400人
※今回訪れた地域

鹿野町鹿野：人口約1,500人

- ・平成16年11月に鳥取市と合併



鹿野町鹿野

■まちづくり活動の経過

- ・平成5年に下水道整備をきっかけに建て替えが進み、現代的な建築物が建ち始めたことから、良好なまちなみ保存・再生のため、翌年から「祭りの似合うまち」を目指し、まちなみ環境整備事業の取組みが開始された。以後、行政による公共空間整備（道路、水路、石橋、石行灯等）、住民による民家の修景整備（まちなみ協定締結により補助適用。H21年までに73件）が進む。
- ・平成12年に鳥取県が実施した「鳥取県街なみ整備コンテスト」に、NPO法人の母体となったサラリーマングループが、「いんしゅう鹿野童里夢（ドリーム）計画」（空き地・空き家を活用した地域振興のランドデザイン）を提案し、最優秀賞を受賞。
- ・その計画を実現するため、受賞したサラリーマングループが中心となりそれぞれに活動を行っていた伝統工芸職人グループ、農産加工グループ、女性グループなど町内のキーマン67名を集め、童里夢計画のプレゼンを行い、全員が同じ方向を向き、意識を共有することで、自然に協働関係がうまれていった。そして、これら同志により「いんしゅう鹿野まちづくり協議会」を設立。平成14年に計画に挙げる町家活動拠点「ゆめ本陣」を整備し、平成15年には第2弾となる町家を活用したお食事処「夢こみち」を整備。
- ・その後、行政や地域住民が出資し「株ふるさと鹿野」や「株サラベル鹿野」が設立され町家拠点などの運営や管理を行い、協議会とともにまちづくりを牽引している。

■まちづくり組織

○NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会

- ・H13.10 設立 → H15.2 NPO法人化
- ・H12 鳥取県街並み整備コンテストの最優秀賞受賞グループが中心となってその計画を実現させるために組織
- ・町家活動拠点「ゆめ本陣」、お食事処「夢こみち」を整備
- ・事業費：2500万円（H20）
会費、応援団会費、ゆめ本陣売上手数料・施設使用料、夢こみち売上げ
- ・協議会は毎月第三土曜に「夢会」という名前で開催している

○株ふるさと鹿野

- ・H16.10 住民と行政が出資し設立。（資本3500万）
- ・公共施設を収益事業として運営（国民宿舎山紫苑、温泉施設）。
また、鹿野往来交流館「童里夢（どりーむ）」の指定管理を行っている

○株式会社サラベル鹿野

- ・H19.8 住民約100人からの出資により設立。（資本800万）

- ・新たな活動拠点として稚蚕共同飼育所として建てられ、公会堂や校舎として利用されていた木造建物を取得し、イベント会場とカフェを備えた「しかの心」と命名し運営

■まちなかの状況



脱色舗装、水路、石橋



石行灯



藍染めのれんと提灯



通りに並ぶ家屋



通りに並ぶ家屋



交差点部は鹿野祭りの屋台が方向転換した際に舗装を痛めないよう石張舗装となっている



まちなみを揃える工夫



まちなみを守るための工夫



鹿野祭りの屋台を納める屋台庫



鹿野祭りの神輿を納める御神輿堂

● 4つのまちづくり拠点

○空屋活用「ゆめ本陣（1号館）」

- ・ H14.4 オープン
- ・ まちづくり協議会で整備
- ・ 民地を賃貸
- ・ 地域コミュニティーの振興、
伝統工芸品の技の伝承、
農作加工品の開発
- ・ 1F物販ゾーン、2Fギャラリー
- ・ 平成21年度利用者 11,000人



○空屋活用「夢こみち（2号館）」

- ・ H16.3 オープン
- ・ まちづくり協議会で整備
- ・ 町と賃貸
- ・ まちづくり協議会の構成団体
「あじさいの会」（女性の会）の
メンバーで運営
- ・ 平成21年度利用者 9,000人



○しかの心

- ・ H20.6 オープン
- ・ (株)サラベル鹿野が取得し活用
- ・ イベント会場、カフェ



○鹿野往来交流館「童里夢（どリーむ）」

- ・ H22.9 オープン
- ・ 鳥取市の整備
- ・ (株)ふるさと鹿野が指定管理を受け管理
- ・ 鹿野祭資料館、カフェ



■所感等

○協議会の方々から取組み経過等の話を聞いたが、自分たちがまちづくりを進めているという意識の強さと実績から来る自信を感じた。「いんしゅう鹿野童里夢（ドリーム）計画」から始まった組織活動は、当時の町長の地域住民の意見を尊重した進め方もあり、地域の意識レベルをあげ、一体となった取組みがスピーディーに進められたものと思う。また、地域を引張るリーダーの存在と伝統として残る「鹿野祭り」で繋がる住民間の高い団結意識も現在のまちが形成された大きな要素になっていると感じた。そして、住民が前面に出て取組みを進めていくことに対して、行政がうまくサポートしており、よい関係のもとまちづくりが進められていることがうかがえた。

○現在活動として10年が経過し多くの成果を挙げている。しかし、今の現状に満足することなく、発展を持続させることを考えておられる。協議会としては若い人が出てきているが、安定期に入り全体として意識が低下しつつあることを危惧されている。まちづくりに終わりは無いとおっしゃったように継続発展をし続けるために今後の10年間でどうあるべきかという常に先を見据えた視点を持って行動されており感銘を受けた。

○話の中で女性パワーが強いということを何度か耳にした。確かに「夢こみち」は、「あじさいの会」という女性からなる農産加工グループの有志により運営されており、また、協議会の副理事長は女性と積極的な活動が見られる。まちなかを回っている時にも感じたが、こうした女性ならではの視点がおもてなしの心として来訪者から支持されるとともにまちのコミュニティーを繋ぐ力として大きく貢献しているものと思う。



視察状況：鹿野往来交流館「童里夢（どリーむ）」内

手前：NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 理事長 長尾氏

奥：NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 副理事長 佐々木氏

■着目点

- 基本計画の基本方針に掲げる「ふるさと感じる町」として、鳥取城の城下町として栄え、自然・歴史・文化を感じる環境を魅力としてまちづくりの整備を進めており、今回の視察については歴史・文化施設を中心にまちなかを回った。
- また、本市と同様に多くの商店街を有し、商店街活性化事業を計画に挙げていることから、商店街にも着目したルートをとることとした。

■まちなかの状況





大工町通り



若桜通り



智頭街道



川端銀座通り



瓦町商店街



駅前商店街

■ 所感等

- JR 鳥取駅から県庁周辺の官公庁集積地区、鳥取城跡までと中心市街地は南北に長く、歩いて移動するには少し距離があった。移動に際しては 100 円巡回バスが運行しており活用したところ快適にまちなかを回ることができた。乗降客はお年寄りが多く、巡回バスの重要性を感じた。
- 歴史・文化施設や山・川という自然など環境に恵まれ、そしてそれを繋ぐ道路網は整備されており、都市としての骨格はすでに形成されているように感じた。ただ、車は多いが人通りが少なく、多くの商店街がある中、駅前商店街で賑わいがあったのみで、他の商店街では賑わいがなく寂しさを感じた。